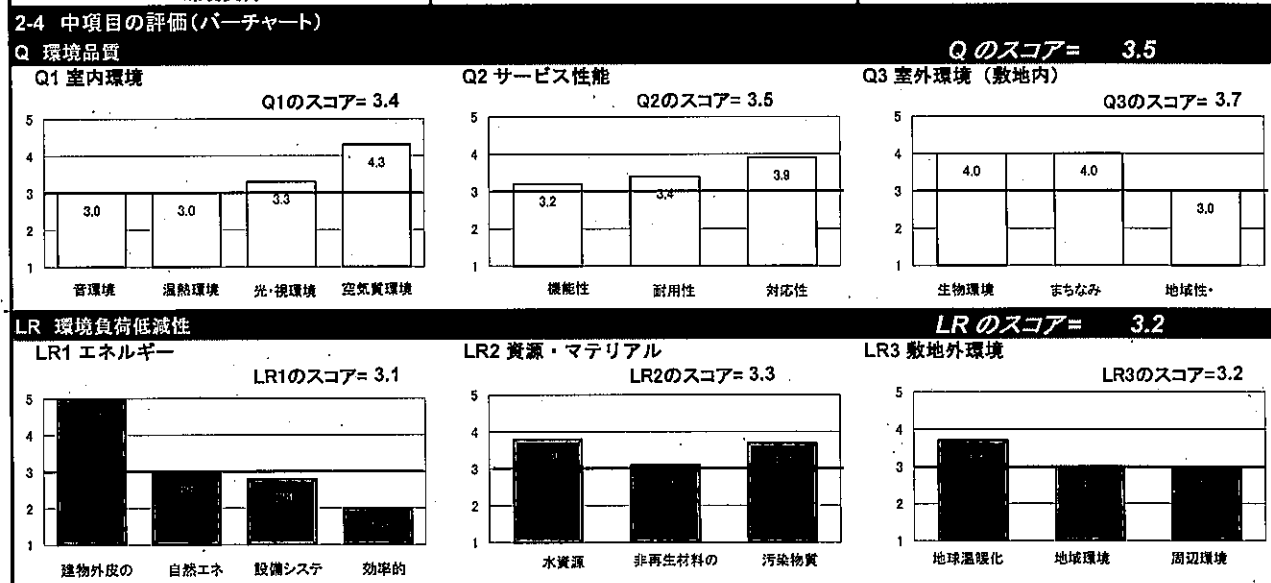
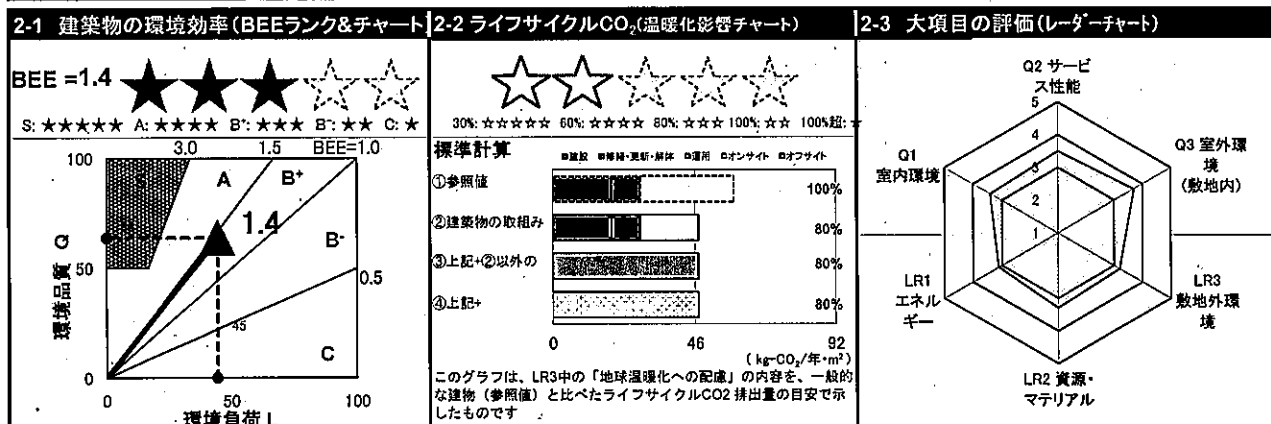


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)KIX01Aデータセンター新築工	階数	地上4階
建設地	京都府相楽郡精華町光台三丁目4番	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	70 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年1月16日
敷地面積	23,256 m ²	作成者	株式会社NTTファシリティーズ
建築面積	6,265 m ²	確認日	2025年1月20日
延床面積	22,073 m ²	確認者	株式会社NTTファシリティーズ



3 設計上の配慮事項		
総合 非居室であるコンピューター室を主とした施設である。電力を二系統にするなど非常時においても信頼性の高い建物計画とした。また、主幹通りに面した壁面を大きくセットバックし、さらにボリュームを低く抑えることで圧迫感低減を図り環境に配慮した。また、休憩スペース等の共用部の仕様に京都府内産材木材を用いた。		その他 特になし。
Q1 室内環境 外部の出入口には庇を設け、事務室に面した窓にはブラインドを設置することで、 glare を抑制し室内環境の向上を図っている。	Q2 サービス性能 ユーザーが求める異常気象時の対応も網羅しデータセンタービジネスを継続できる仕組みを構築する。	Q3 室外環境 (敷地内) 室外機は地上面ではなく、屋上に設置することで、敷地内温熱環境の向上及び騒音対策について貢献。
LR1 エネルギー BEMSの利用と、24時間管理体制により効率的運用の実現。また、太陽光発電によるエネルギーの自給も行う。	LR2 資源・マテリアル LGS工法の採用により、躯体と仕上げが分離可能になるように配慮。消火剤としてN2ガスを選定。	LR3 敷地外環境 緑地を道路境界部に設けることで、敷地外への温熱環境悪化の改善及び居住性に貢献。雨水貯留槽を設けることで、降雨の際の下水道への負担の抑制。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

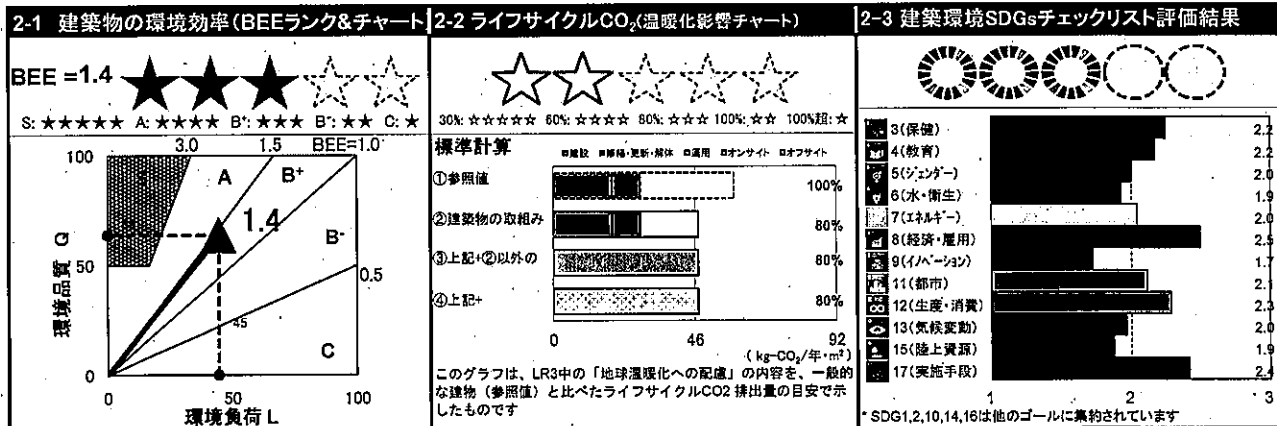
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

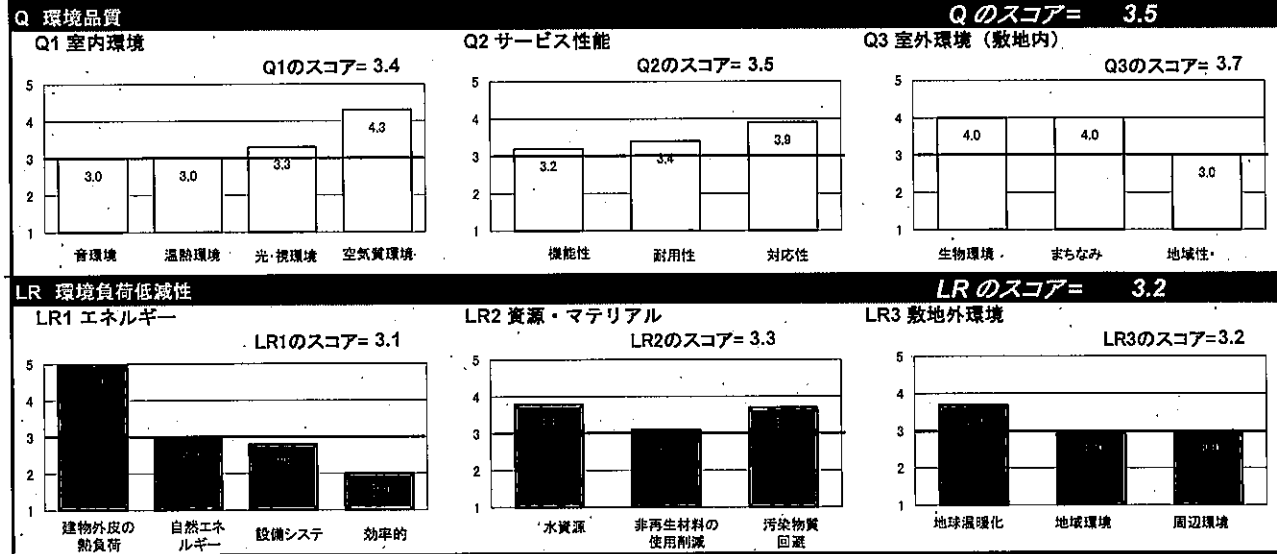
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 評価版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)KIX01Aデータセンター新築工	階数	地上4階
建設地	京都府相楽郡精華町光台三丁目4番	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	70 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年1月16日
敷地面積	23,266 m ²	作成者	株式会社NTTファシリティーズ
建築面積	6,265 m ²	確認日	2025年1月20日
延床面積	22,073 m ²	確認者	株式会社NTTファシリティーズ



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合 非居室であるコンピューター室を主とした施設である。電力を二系統にするなど非常時においても信頼性の高い建物計画とした。また、主幹通りに面した壁面を大きくセツトバックし、さらにボリュームを低く抑えることで圧迫感低減を図り環境に配慮した。また、休憩スペース等の共用部の什器に京都府内産材木材を用いた。		その他 特になし。
Q1 室内環境 外部の出入口には庇を設け、事務室に面した窓にはブラインドを設置することで、グレアを抑制し室内環境の向上を図っている。	Q2 サービス性能 ユーザーが求める異常気象時の対応も網羅しデータセンタービジネスを継続できる仕組みを構築する。	Q3 室外環境 (敷地内) 室外機は地上面ではなく、屋上に設置することで、敷地内温熱環境の向上及び騒音対策について貢献。
LR1 エネルギー BEMSの利用と、24時間管理体制により効率的運用の実現。また、太陽光発電によるエネルギーの自給も行う。	LR2 資源・マテリアル LGS工法の採用により、躯体と仕上げが分離可能になるように配慮。消火剤としてN2ガスを選定。	LR3 敷地外環境 緑地を道路境界部に設けることで、敷地外への温熱環境悪化の改善及び居住性に貢献。雨水貯留槽を設けることで、降雨の際の下水道への負担の抑制。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される